

未来に伝えよう “命どう宝” の心

真壁小学校 六年

山城 泉

「じいちゃん、戦争の話聞かせて」

と私は言いますが、じいちゃんは、

「戦争は二度と思いだしたくないさー」と返事します。私は、じいちゃんの

言葉をきっかけに身内から戦争の話が聞かなくなりました。

でも、少しだけじいちゃんの気持ちが分かったような気がして、きっと悲惨だったんだと思います。

そんな時、お母さんからじいちゃんが経験した戦争の話を知りました。それは、じいちゃんはサイパン島で生まれ、父親、母親を亡くしたそうです。弟は、父親におんぶされていたところ父親にばくだんが当たり弟も同時に亡くなったそうです。そして、母親も足にばくだんが当たり亡くなりました。

その中、じいちゃんとお兄さんが残っていて二人共沖縄に行ったそうです。

でも、じいちゃんのお兄さんは二年前くらいに病気でなくなりました。その日から、じいちゃんは家族みんな残らずたった一人になったのです。こんな時、私だったら苦しくてさみしくて死にたくなるかもしれません。ですが、私の大好きなじいちゃんは毎日笑顔でみんなを笑わせてくれる。悲しみから、私達孫の幸せに変えてくれる。私は、じいちゃんに恩返しをしたいと思っています。今は、お家に呼んで夕食と一緒に食べたり一緒に遊びに行ったりする事ができませんが、私が大人になったらじいちゃんにとってもおいしいごちそうをあげたいです。それが、私の今の夢です。そして、もう一つ私はじいちゃんと同じような立場の人のお話を聞いてあげたいです。先祖が、子孫に戦争の話をしなければいつかは沖繩の人が戦争の話をする事がどんどん減っていき最後は戦争という言葉がなくなっていくのではないのでしょうか。私は、戦争のおそろしさを知ったからには、戦争の事を多くの人に知ってもらわなければなりません。

自分は、沖繩戦の事を良く知っているから終わりではなく、また身近な人からどんどん遠くの世界の人の戦争のおそろしさを告げなければなりません。

また、私はおばあちゃんから、沖繩戦の話を知りました。戦争当時、おばあちゃんは弟一人と妹一人お母さんと一緒に逃げたそうです。アメリカ軍は北谷町から来ておばあちゃん達家族は南に向かって走ってはかくれ走ってはかくれ、それをくり返していた時じいちゃんの母親と同じようにおばあちゃんのお母さんの足にばくだんが当たり走れなくなっておばあちゃんに、言葉を残したそうです。

「南に向かって逃げなさい。」とその言葉をむねに、おばあちゃんは弟と妹を連れ南にあるごうに向かいました。そのごうは、轟のごうで地下には水も流れて、何人も人が入れるくらいの広さだったそうです。私は、沖繩戦がどれだけ悲惨だったのか今だ少ししか分かりません。

でも、私はこれまで戦争の話を知って学んだ事があります。

一人に一つある命は決してむだにせず命のスイッチが切れるまでぜったいに使いはたす事。戦争がこの沖繩であったからには沖繩の人である自分が考えなければならぬ。私は、戦争がとても大嫌いです。人の命を簡単にうばっていくからです。世界中の人が幸せになりますように二度と戦争で人の命がうばわれないようみんなが努力しなければなりません戦争をぜったいにわすれたいけない。

“命どう宝”